

江別市

～「みんなで作る未来のまち えべつ」～



関連指標	数 値
【人 口】	119,580 人
【面 積】	187.57 km ²
【出生数】	626 人
【世帯数】	58,026 世帯
【人口増の状況】	令和2年 595 人 令和元年-14 人 平成30年-183 人

(出典：住民基本台帳 (R2.1.1), 人口動態統計 (R2))

1 市の特徴

江別市は、大都市札幌に隣接し、同時に日本三大河川の一つである石狩川が流れ、大都市近郊で希少な大規模平地林である野幌森林公園があり、都市機能と自然が調和したまちである。

江別でのれんが生産は明治24年に始まったと言われ、現在でも有数の産地として全国に流通している。市内には、学校、サイロ、民家、倉庫など数多くのれんが建造物が現存しており、「江別のれんが」は平成16年に「北海道遺産」として認定されている。

2 人口増の要因

震災復興や東京オリンピックに向けた建設需要に加え、全国的な人手不足・資材価格の上昇により建築価格が高止まりしているとともに、札幌市内の地価も上昇が続いている。

こうした建築・土地価格が上昇傾向にある中、郊外に住宅を求める若い世代が増え、特に土地が安価な割に交通利便性の高い当市が注目されていると考えている。

3 市独自の少子化対策・子育て支援施策・移住定住施策等

(1) 生涯活躍のまち「ココルクえべつ」

江別市民が生涯にわたって安心して生活できるまちづくりを目指し、生涯活躍のまち「ココルクえべつ」を整備した。この拠点施設は、若年者や障がい者、高齢者など多様な主体との交流による「共生のまち」を実現し、市民が住み慣れた地域で生涯にわたって安心して暮らし続けられるまちを目指している。



(2) 江別市子育てひろば「ぼこ あ ぼこ」

市民が集まる市内スーパーマーケットで子どもと保護者が自由に遊び、他の家族と交流できる子育て支援センターを設置している。当施設には、交流施設としての機能のみならず、子育て支援コーディネーターを配置し、子育てに関する様々な相談を受け付けている。



(3) 大学生向け事業「ジモ×ガク」、「EBETSUto」(えべつと)

① ジモ×ガク (学生地域定着推進広域連携事業)

市内にある4大学(北翔大学、札幌学院大学、酪農学園大学、北海道情報大学)の学生と、江別市を含む連携市町村(芦別市、赤平市、三笠市、南幌町、長沼町、由仁町)で行われる地域や商店街のイベントボランティア、体験学習、インターンシップなど地域活動とのマッチングを行っている。それらの活動に参加する中で、人との出会いや、各自治体の魅力を発見してもらい、将来的な地域の「定住人口」を増やすことを目的としている。



② EBETSUto (大学生等地域関係促進事業)

令和2年度より、江別市の「関係人口」の創出を目指し、市内にある4大学の学生を中心としたユースチームが企画したものを地域の中で実践する取組を行っている。これまで、基盤となるスマホ専用アプリを開発したほか、市内デザイナーとの協働によるロゴやパンフレットの作成、市内企業の若手職員との交流会などを実施している。今後は、大学生主体のバスツアーや首都圏在住の卒業生へのアンケートなど、更に活動を広げていく予定である。



4 施策を実施するに至った背景及び今後の展望

(1) 少子化対策について

江別市では、平成 28 年から転入者が転出者を上回る社会増の状態が続いている。特に、子育て期の転入者が多く、まちの活性化につながっているが、こうした結果はひとつの施策の重点的な取組結果ではなく、子育て支援、観光振興、雇用促進、シティプロモートなどの総合的な対応によるものだと考えている。少子化対策に向けた長期的な視点に立ち、「コルクえべつ」や「ぼこ あ ぼこ」などの魅力的な場所を創り出すほか、子育て環境を更に充実させることが重要だと考えている。

(2) 「関係人口」、「定住人口」の創出について

人口約 12 万人の江別市は、札幌市のベッドタウンというイメージが強いが、市内には 4 つの大学があり、約 1 万人の大学生が在籍する文教都市でもある。一方で、毎年大学を卒業する約 2,500 人のほとんどが江別市に留まらずに市外への就職・転出が常態化している。こうした状況下にあっても、大学での 4 年間を過ごす中で少しでも江別のことを知ってもらい、好きになってもらうことを目的に「ジモ×ガク」や「EBETSUto」を事業化したところであり、関係人口や交流人口を増やす取組を続けることで、子育て期などの将来的な定住人口の増加につながっていくものと考えている。